

こたまコラム (矢作新報社への寄稿内容)

師走に入り日毎に寒さを増しておりますが、皆さんに於かれましては如何お過ごしでしょうか。

さて、県議会12月定例会が今月3日に開会となり、都道府県としては初となる「認知症施策推進条例」をはじめ各議案の審議が始まりました。

また、今年度は所属しております「新政あいち県議団」の政策調査会長を拝命している事から、5日の本会議において、県議団を代表して今後の財政見通しや少子高齢化対策、更には交通事故の撲滅や大規模自然災害への備えの充実等々、県政諸課題に対する代表質問を行いました。

特に大規模自然災害については、今年は全国各地で大規模な災害が発生しましたが、本県においても南海トラフ巨大地震をはじめ、いつ何時、災害に見舞われてもおかしくない状況にあります。

こうした状況を受け、本県では地震対策については東日本大震災の教訓を活かし、2014年に「第3次あいち地震対策アクションプラン」を策定し、その後の熊本地震における教訓も反映するなど日々アップグレードに努め、風水害対策についても「風水害等災害対策計画」に基づき、対策強化に取り組んでおります。

しかし、この様に各地で発生した災害を教訓とし、日々計画を見直し対策を講じても、その後に発生する大規模自然災害では、また新たな課題が浮き彫りとなることから、随時新たな課題に対する検証を行い、その内容を本県の防災計画に反映する事が必要です。

従って、今年発生した大阪府北部地震や平成30年7月豪雨などについてはしっかりと検証し、本県における防災対策に確実に反映するよう県に求めましたが、誰もが安心して生活できる社会づくりに向け、今後も全力で取り組んでまいります。



愛知県議会議員

こたま よしかず

樹神 義和 